

大学院生シンポジウム GS01

次世代型創薬の可能性を探る ―既承認薬・開発中止品の応用を指向した研究―

Seeking the Prospects for Next-Generation Drug Discovery

―Toward New Uses of Existing Drugs for New Indications―

鈴木 俊章^{1,2}, 沢崎 綾³

¹名大院創薬, ²名市大院薬, ³慶應大院薬

昨今、新薬開発の成功率は3万分の1以下とも言われ、本邦のみならず世界中で新薬上市数は減少傾向にある。その原因の1つに臨床試験のハードルを超えられないことが挙げられる。そのような現状を打開するための新たな戦略として、「ドラッグリポジショニング」や「エコファーマ」が提唱されている。両者は厳密には異なるが、どちらもヒトでの安全性や薬物動態などの多くの既存データを使用できる既承認薬や開発中止品を研究材料として、新たな薬効・薬理を探索するという点で、臨床応用性に優れた戦略である。国内では浸透が遅れていることが指摘されてきたが、製薬企業を中心に徐々に取り入れられ始めている。

本シンポジウムでは、そのような「医薬品の応用」に注目している大学院生らが、最新の研究成果を紹介する。未来の医療薬学を担う研究者の卵が、社会還元を念頭においた研究の最新情報やアイデアを議論することで、基礎科学的知識・思考能力のみならず、薬学研究者が求められるべき、臨床現場や医療経済への貢献といった視点が強化されることが期待される。